

緑園連合 News

2025年4月15日 Vol. 59

発行 緑園連合自治会

発行責任者 貝沼 貞夫

編集責任者 小松 貴聡

◆◆泉区地域協議会緑園地区代表委員より活動報告◆◆

泉区地域協議会 緑園地区代表委員

成田俊人 長谷川幹夫

平成21年度に地域協議会が発足してから15年経過し、この間に少子高齢化の進展や生産年齢人口の減少等社会情勢は変化し、地域課題も複雑化・多様化し、合わせて泉区地域支援体制も順次拡充されてきました。

今期（令和5・6年度）の本協議会では、これまでの活動を振り返り、さまざまな環境の変化に応じて地域課題を検討してきた経緯をふまえつつ、地域課題に取り組む地域支援体制も変化している状況において、今後どのような役割を果たすべきか等「地域協議会の今後のありかたについて」泉区長から課題検討の依頼を受け、検討を進めてきました。

令和5年度の1年間は、本協議会発足から15年間のこれまでの活動を検証し、本協議会の課題や今後の方向性について検討した経過を「中間報告書」としてまとめました。

令和6年度の第1回定例会において、「中間報告書」を踏まえた泉区役所の考えとして「地域協議会の役割は既存の仕組みに転換・拡充等することとし、令和6年度をもってこれまでの地域協議会は発展的解消」することが提案されました。

そして、令和6年度の1年間は、泉区役所からの提案をもとに、持続可能な地域主体の地域運営に向け、本協議会発展的解消後の地域支援を含む地域運営のあり方について検討してきました。

本協議会は泉区役所の提案に賛同することとし、その上で本協議会発展的解消後の泉区地域支援の在り方と地域主体の地域運営について取りまとめた形で、2月13日（木）に開催された最終回にて意見書として区長に手渡されました。



会場風景



議論する長谷川委員



区長、委員長、成田副委員長

◆◆緑園マラソン大会が開催されました◆◆

緑園連合自治会主催「緑園マラソン大会」が2月1日（土）、緑園学園メインランド及び緑園5丁目外周道路を会場として開催されました。

当日は好天にも恵まれたこともあり、多くの小学生や大人の皆さんが参加され賑やかな大会となりました。競技は小学生低学年男女の部、同高学年男女の部、一般男女（40歳未満、40歳以上）の部に分かれ行われました。各種目、男女別で、1～3位までの入賞者に商品が授与され、参加者、応援者全員に温かい缶詰のこや缶コーンスープが振舞われました。また、会場として運動場及び設備をお借りした緑園学園様に厚くお礼申し上げます。



受付係



貝沼会長あいさつ



スタート風景

～特集 緑園ひと・まちについてのミニ知識～

緑園のまちには、多くの皆さんが他の地域から転入してこられ、現在、ほぼ満たされた状態になってきているようです。そこで、緑園のひと・まちに係るさまざまな情報についての「ミニ知識」をご提供したいと思います。

その2<緑園誕生のいきさつ>

☆開発前の村の姿；

開発が始まる前のこの地は戸塚区岡津町にあり、53世帯が暮らすのどかな山村でした。小高い山に囲まれていて、山あいから発する子易川は貴重な存在でした。

夏にはあちこちで蛍が飛び交い、うなぎやハヤなどの小魚が獲れていました。田んぼや生活用水としても使われていました。

明治、大正、昭和の初期頃は地域を字名（あざめい）で呼び合っていました。稲荷谷、子易（こやす）、須郷と言う三つの地域で、今日の1丁目から7丁目を指しています。他にこの地には池ノ谷と言う地名もあります。

住民のよりどころは山王神社の春祭りでした。大正7、8年頃まではお祭りに余興として田舎芝居を行っていたと言われています。この神社は滋賀県の日枝大社が本山で、その山王権現のご神体が祀られています。今から350年ほど前に遡る歴史があると伝えられています。以前は少し離れた場所に在りましたが、開発計画の中で現在地に移されています。正月三が日の初詣と9月の例大祭には多くの参拝者で賑わいます。

☆緑園地区の開発；

この地域の開発は昭和42年頃から話が始まり、本格的に地権者の理解が得られたのは昭和45年でした。横浜市の先進的な街づくり構想により、昭和49年に地域の区画整理事業が事業代行者の相模鉄道（株）により進められました。施工面積は122万㎡、総事業費約370億円で、実に13年がかりの大開発事業でした。

一 緑園地区の開発経緯一

- ①昭和43年11月22日 認可される
- ②昭和49年12月3日 中川第一土地区画整理組合設立総会開催
- ③昭和51年4月8日 相鉄いずみの線開業
- ④昭和62年4月15日 組合解散
- ⑤昭和62年5月30日 竣工式



緑園地区開発の記念碑

☆開発の記念碑；

本事業の完成を記念して、駅前広場（現相鉄ローゼン広場南側）に記念碑が建てられました。この記念碑は、台座部分が区内の旧町名岡津町、新橋町、名瀬町の三町を表しています。人物像は組合員約200名を表現しており、過去から現在、さらに未来へと続く都市と個人の歴史を「一筋の列」としてイメージし彫刻家三木俊治氏により製作されたものです。

☆昔の地名を冠した公園；

緑園地区には丁目ごとに公園が設けられており公園に昔の地名が多く使われています。

地区名	公園名
緑園1丁目	緑園稲荷谷公園
緑園2丁目	緑園東田谷公園
緑園3丁目	緑園神明谷公園
〃	緑園子易谷公園
緑園5丁目	緑園北ノ入公園
緑園6丁目	緑園須郷台公園
緑園7丁目	緑園七丁目公園



山王神社



四季の道

（参考文献：「土地区画整理事業のあゆみ」中川第一土地区画整理組合編）

◆◆各自治会の行事報告◆◆

各自治会より投稿いただいた年末・年始の行事報告を掲載させていただきます。

○緑園1丁目

「緑園1丁目どんと焼きを実施」

1月12日(日)10時~13時まで、緑園稲荷谷公園で、飲み物、お菓子、お団子を用意して1丁目のどんと焼きを行いました。お団子は、各自がどんと焼きの火で焼きましたので、美味しくいただくことができ、お子さん達に特に喜んでいただきました。(1丁目佐藤純子氏より投稿いただきました)

○緑園5丁目

「緑園5丁目餅つき大会を実施！」

2024年12月7日(土)、緑園北ノ入公園にて恒例の緑園5丁目餅つき大会を実施しました。当日は穏やかな晴天に恵まれ、自治会員の皆様が家族連れで多数来場した賑やかな一日となりました。薪で火を起し、もち米を蒸して臼と杵でつくという手作業の工程は、日本の伝統文化そのものです。地域の皆様とともにこの貴重な文化を次世代に伝えていきたいと改めて感じました。

つきたてのお餅は温かい豚汁や飲み物とともに振る舞われ、地元農園で育てた新鮮な野菜を使った豚汁の味わいに、「美味しいね」と笑顔があふれました。また、野菜販売も行われ、旬の野菜は来場者にとっても好評でした。

後半では役員や班長の紹介のほか、ビンゴ大会も行われ、クリスマスやお正月にちなむ景品が当たるたびに歓声があがりました。会場全体が笑顔と感謝に包まれ、和気あいあいと絆深まる楽しい一日となりました。(緑園5丁目担当事業部より投稿いただきました)

◆◆緑園学園卒業式が行われました◆◆

地域の皆様に育てていただいた卒業生

緑園学園 令和6年度9学年主任 青柳 孝志

「この緑園学園で学び、成長してきた私達は、対立や分断のある、そんな寂しく残酷な未来は望みません。そんな未来にはさせません。」

3月に行われた第3回卒業式での卒業生代表野中彩愛さんによる答辞の一節です。凛々しく、そして力強く発せられたその言葉は、これまでの緑園学園での学びを生かし、人々とのつながりや協働を通して、これからの社会を創っていくとする卒業生全員の決意の表れであり、聞く者すべてに勇気と希望を与えるものでした。

令和6年度の卒業生がこのような境地に至ることができたのは、地域の皆様のご協力があったためです。7年次から、「総合的な学習の時間」のまとめの発表会では地域の方に聴衆として参加していただきました。また、8年次には少子高齢化などの地域課題や海の豊かさをテーマとしたパネルディスカッションにご参加いただき、ご助言いただきました。

そして、3年間の学びの集大成となった昨年度。11月の国語科全国大会での「合意形成」の授業では、中学生、大学生、地域の方がひとつのグループを作り、地域課題の解決に向けて全員が真剣に話し合いました。そこにはこれまでの地域の方とのつながりを通して、他者を尊重することを理解した生徒の姿、そして、多様な考えを想定しながら提案内容を整理し、伝え合う内容を検討する力を身に付けた生徒の姿がありました。生徒たちがこのように成長できたのは、地域の皆様の愛情のこもった継続的なご支援があったためです。心から感謝申し上げます。

私事になりますが、令和7年度は学校と地域との結びつきについて研究するために横浜国立大学教職大学院に派遣されることになっております。学校、地域、大学、企業、行政が地域や学校の課題を共有し、社会全体で課題解決していく仕組みを作ります。そのために、地域の皆様とはこれまで以上にお話しさせていただく機会が増えると思います。今後ともよろしくお願いたします。



緑園学園 (同校 HP から)

◆◆緑園連合 News の編集委員のご紹介◆◆

長谷川幹夫（82歳）（血液型：A型）緑園2丁目

○緑園に転入のいきさつ；

23歳の頃勤務先の奨めで新橋堂山の宅地を何人かの社員と買いにきたところすでに売り切れていて、代わりに紹介された堂山団地の東隣りの殆ど未開拓の土地を仕方なく購入。長い間整地もままならずそのままにしておいたところ、いずみ野線が開通し、相模鉄道による宅地開発計画がもちあがり、緑園エリアに包含されることになりました。

地権者の一員として、中川第一土地区画整理組合に加入し、開発会議に出席し意見を述べるなど協議に加わりました。工事が進捗し、建築許可が下りたところで、新築、5人家族で転入することができました。

○編集委員就任のきっかけと感想；

2010年度の石田連合会長の元で総務部長としてお勤めすることになり、機関紙の発刊を進言し、役員会議で発刊が決定しました。以来、編集責任者→発行責任者→編集委員として今日に至ります。皆様のご協力のおかげでここまでやってこれて良かったです。



飯塚智明（58歳）血液型：O型 緑園2丁目

○緑園に転入のいきさつ；

緑園に住んで20年になります。街としてはすでに完成されていて、キラキラしている印象で憧れの街でした。たまたまテニスコート跡地の分譲住宅に住むことができました。

○編集委員就任のきっかけと感想；

長谷川さんにお声かけして頂き、2018年頃から編集委員に参加させて頂きました。原稿を編集させて頂く程度しかお役に立っていませんが、緑園地域のいろいろな活動に触れるきっかけになり、他の編集委員メンバーと楽しく活動させて頂いています。



鈴木英範（52歳）血液型：A型 緑園1丁目

○緑園に転入のいきさつ；

就職してから横浜市に住むようになり、社宅をでなければいけなくなったタイミングで家探しをしていたのですが、偶然見つけることができたのが緑園でした。

引っ越す前までは、恥ずかしながら緑園を知らず、相鉄線もほとんど利用したことがなく、全く土地勘がない状態だったのですが、転入してからかれこれ14年になり、いつの間にか自分がこれまで住んだ一番長い場所になりつつあります。

○編集委員就任のきっかけと感想；

長谷川さんからのお声かけで2019年頃から編集委員をさせて頂いています。編集作業を微力ながらお手伝いさせて頂いている程度ですが、作業を通じてあらためて緑園の皆さんの活動を知る機会になったと感じております。



森田伸一（55歳）血液型：O型 緑園3丁目

○緑園に転入のいきさつ

金沢区で生まれ、子供のころ旭区柏町へ引っ越し、18歳のころから緑園に住んでいます。地主の方々を除くと、最も早くに住み始めた住民のグループです。当時はまだサンステージ東の街もローゼンもなく、空き地ばかりの街でした。

○編集委員就任のきっかけと感想

長谷川さんにお声掛けしていただき、お手伝いさせて頂くことになりました。編集しながら、緑園の様々なことを勉強させて頂いています。



編集後記

いよいよ大阪万博が始まります。横浜・上瀬谷で開催される GREEN×EXPO 2027 もいよいよ2年後に迫ってきました。我々の地元で開催される世界レベルの博覧会です。地域全体で盛り上げていきましょう。

【編集委員】長谷川幹夫、飯塚智明、鈴木英範、森田伸一